

## 第5章 土工事施工

### 1) 計画・準備

#### a. 根切計画

根切施工図による。

#### b. 排水計画

湧水、雨水等の排水は、A通り  
に釜場2ヶ所を設け水中で

を掘り各通りがつながるようにして7通  
りに送り、沈砂させてから側溝に放流する。

#### c. 災害および公害の防止

- (1) 工事中は地盤沈下、法面の  
シート等で法面の養生を行
- (2) 掘削機械等の使用に当た  
周辺環境の維持に努め、  
また、排出ガス対策型建

生しないよう、随時監視するとともに、  
その他現場内外への危害等の防止および  
を講ずる。  
使用する。

### 2) 使用材料

種 別	規格・寸法	製造所・備考
再生砕石		産業(株)
ポリスチレンフォーム	JIS A 9511	工業(株)
ポリエチレンフィルム		化工(株)

### 3) 根切り

#### a. 準備・遣方

- (1) 根切に先立ち下記の事項  
地盤調査の結果による地盤把握。  
近接した建築物などへの影響の有無を検討する。

#### (2) 遣方

根切途中での位置の確認のため根切部分の外周にX - Y方向の逃げ杭を打っておく。  
根切計画図に基づいて白線による根切の形状を描き建物の位置関係の確認、根切計画図

との照合を行なう。また、掘削機械のオペレーターおよび土工に根切の形状を把握させる。

b . 使用機械器具

名 称		数 量	メーカー
バックホウ	HD -	1 台	コマツ
ダンプトラック	11 t	6 台	
水中ポンプ	2 イン	3 台	
プレートランマー	MTR	1 台	
一輪車			
レベル			

c . 根切り

- (1) 根切りはオープンカット
- (2) 根切り箇所周辺には L 型  
いよう、注意深く施工す
- (3) 工事に支障となる軽易な  
した場合は、監督員を協
- (4) 根切り底は地盤をかく乱  
床付けを行う。なお、地盤  
ラップルコンクリートの
- (5) 根切り底の状態、土質お  
なお、支持地盤が設計図
- (6) 根切の際、掘り過ぎるこ
- (7) 大量の降雨が予想される
- (8) 根切底には、排水溝を設

設構造物があるので、それらを損傷しな  
る。また、予想外に重大な障害物を発見  
床付け面付近から手掘り工具を使用し、  
く乱していない地盤まで更に掘り下げ、  
と同等の強度を確保する。  
監督員の検査を受ける。  
員と協議する。  
レベルのチェックを行なう。  
ートにて養生する。

4 ) 床付け

- a . 機械で床付けする場合は、
- b . 根切深さのチェックはレベ

に行う。

5 ) 地耐力の確認

- a . 根切り完了後、下表の通り平板載荷試験を実施する。

試験箇所数	2
-------	---

https://www.sekouya.com

試験場所	監督員の指示する場所
確認する支持力	長期 300kN

b . 試験方法は別紙の通り。

6 ) 水替え

- a . 工事に支障を及ぼす雨水、湧排水する。ただし、予想外の
- する。
- b . 側溝放流の場合は、必要に

適切な溝やかま場を設け、ポンプにより  
 大な支障を生じた場合は、監督員と協議  
 ・砂を沈殿させる。

7 ) 発生土の処理

- a . 根切り残土は原則として場内
- b . 建設残土として場外処分する

残土処分場所および埋め戻し

種 別	場
仮置き	県 市
場外処分	県 市
案内図	別 紙

土地管理者	現場からの距離
産業(株)	0 . 5 km
興業(株) 残土処理場	12 km

https://www.sekouya.com

3) 埋戻しおよび盛土

- a. 埋戻しに先立ち、埋戻し部分にある型枠等を取り除く。  
ただし、型枠を存置する場合は、監督員と協議する。
- b. 埋戻しおよび盛土の材料および工法は下表の通り。

種別	材料	工法	1層の締め厚
B種	根切り土中の	締め	300 mm

- c. 建物内部は土間スラブの高さまで埋戻し、余盛りは行わない。  
ただし、建物周囲の盛土は表土を盛土とする。
- d. 留意すべき事項
  - (1) ジャンカや打継部等土にジャンカを認めない。
  - (2) 埋戻し箇所に、木片・ごみ等を入れない。
  - (3) 埋戻し土は、発生土のように入らない。
  - (4) 土間下の埋戻し土は、入らない。
  - (5) 埋戻し機械が地中梁の上を走行しないように注意する。

埋戻し、余盛りは行わない。  
確認をして、必要な箇所は補修しておく。  
土間に片付けを行なう。  
土間に片付けを行なう。  
300 mm 程度ごとに締め固めて仕上げる。  
土間に片付けを行なう。  
土間に片付けを行なう。

4) 砂利地業

- a. 砂利地業は下表の通り行う

部位	材料
地中梁下	再生クラッ
土間スラブ下	
ピット土間下	
犬走り下	

工法	厚さ
機械による締め	100mm.
〃	〃
〃	〃
〃	〃

- b. 砕石は転圧機で十分に締め固める。

5) 捨てコンクリート打設

- a. 捨てコンクリート打設の範囲は、基礎梁の位置出しを行い、栈木にて止め、土間に片付けを行なう。
- b. 捨てコンクリート打設天端は、土間に片付けを行なう。

30mm とし、遣方杭に基づいて正確に位置出しを行い、土間に片付けを行なう。  
土間に片付けを行なう。  
土間に片付けを行なう。  
土間に片付けを行なう。

6) 床下防湿層

- a. 床下防湿層の範囲は建物内部のみとし、床コンクリート下がピット等でない部分とする。なお、ピット土間下は除く。
- b. 床下防湿層はポリエチレンフィルム t=0.15 とし、重ね合わせおよび基礎梁際のみ込みは、土間に片付けを行なう。

250mm.程度とする。

c. 床下防湿層の位置は土間コンクリートの直下とする。

#### 7) 床下断熱層

(1) 床下断熱層の範囲は床下防湿層と同じとする。

(2) 床下断熱層はポリスチレ

隙間無く敷き詰める。

(3) 床下断熱層の位置は床下

#### 8) 施工記録(写真記録)

a. 下記内容について撮影する。

(1) 使用材料種別毎

(2) 床付け状況

(3) 掘削床の深さ

(4) 支持地盤の確認

(5) 埋戻し状況各層毎

(6) 砕石締固め状況

(7) 砕石厚さ部位毎

(8) 床下防湿層適宜

(9) 床下断熱層適宜

(10) 排ガス対策型建設機械

#### 9) 添付資料

a. 資格証等写し

b. 使用材料資料

c. 平板載荷試験

d. 排出ガス対策型建設機械の排

(国土交通大臣官房技術審計

覧表は使用する機械の欄を

e. 平板載荷試験を依頼する専門

f. 機械カタログ

<https://www.sekouya.com>

建設機械指定通知書と、一覧表を添付。一